



平成26年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年10月7日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 パルコ

コード番号 8251 URL <http://www.parco.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 牧山 浩三

問合せ先責任者 (役職名) 執行役財務部、経理部、事務統括部担 当 (氏名) 野口 秀樹

TEL 03-3477-5791

四半期報告書提出予定日 平成25年10月11日

配当支払開始予定日

平成25年10月28日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家、アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年2月期第2四半期の連結業績(平成25年3月1日～平成25年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年2月期第2四半期	129,401	0.8	5,926	22.0	5,824	27.9	3,280	46.6
25年2月期第2四半期	128,337	3.6	4,858	20.5	4,554	14.8	2,237	9.6

(注) 包括利益 26年2月期第2四半期 3,496百万円 (56.2%) 25年2月期第2四半期 2,237百万円 (18.7%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年2月期第2四半期	32.33	—
25年2月期第2四半期	26.18	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年2月期第2四半期	221,604	106,166	47.9
25年2月期	206,243	103,573	50.2

(参考) 自己資本 26年2月期第2四半期 106,166百万円 25年2月期 103,573百万円

2. 配当の状況

	年間配当金					合計
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末		
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年2月期	—	9.00	—	9.00	18.00	
26年2月期	—	9.00	—	—	—	
26年2月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00	

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年2月期の連結業績予想(平成25年3月1日～平成26年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	267,900	1.2	12,200	12.7	11,900	15.2	6,350	24.9	62.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 有
- ④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は、添付資料P.5「2. サマリー情報(注記事項)」に関する事項(3)「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年2月期2Q	101,462,977 株	25年2月期	101,462,977 株
② 期末自己株式数	26年2月期2Q	2,200 株	25年2月期	11,635 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年2月期2Q	101,456,669 株	25年2月期2Q	85,448,028 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は実施中でありませぬ。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しています。また、平成25年10月7日(月)に機関投資家、アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会の動画については、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

(参考) 個別業績予想

平成 26 年2月期の個別業績予想(平成 25 年3月 1 日～平成 26 年2月 28 日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	246,000	1.4	11,800	16.1	11,600	12.9	6,350	16.6	62.59

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 継続企業の前提に関する注記	11
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	11
(6) セグメント情報等	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府による経済対策及び金融政策の効果により円安、株高が進行し、企業収益や高額品購入を中心とする個人消費に回復傾向が見られたものの、欧州の財政不安や円安影響による輸入資材の価格上昇等といった国内景気を押し下げるリスクが存在することから、景気の先行きには不透明感が残りました。

このような状況の下、当社グループは、都市生活のアンカーとしての存在意義を高めるため、パルコの原点である「インキュベーション」、「街づくり」、「情報発信」を具体化すべく事業を推進いたしました。

当第2四半期連結累計期間におきましては、将来の成長に向け都心部での事業拠点の拡大を図り、上野に新たに商業施設を出店することを決定いたしました。また、ゼロゲート事業につきまして、大阪2店舗の開業に加え、新たに名古屋への出店を決定いたしました。一方、既存のパルコ店舗につきましても、周辺開発を強化し、福岡パルコ隣地での新館開業を決定した他、引き続きテーマ性を持った提案型の改装とくPARCOカードを軸とした営業企画・販売促進策により収益基盤の強化を図りました。

この結果、当社グループの当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は1,294億1百万円（前年同期比100.8%）、営業利益は59億26百万円（前年同期比122.0%）、経常利益は58億24百万円（前年同期比127.9%）、四半期純利益は32億80百万円（前年同期比146.6%）となりました。

セグメント別の状況は次のとおりです。

<ショッピングセンター事業>

ショッピングセンター事業の売上高は1,181億7百万円（前年同期比101.7%）、営業利益は56億27百万円（前年同期比125.6%）となりました。

株式会社パルコにつきましては、株式会社大丸松坂屋百貨店が平成29年秋に開業を予定している高層複合ビル「松坂屋上野店・新南館」に、新たに商業施設を出店することを決定いたしました。また、心齋橋ゼロゲート、道頓堀ゼロゲートを4月に開業後、準備を進めてまいりました広島ゼロゲートの10月10日開業を決定し、さらに、名古屋・栄三丁目に5店舗目となるゼロゲートの出店を、平成26年秋開業の予定で決定いたしました。

海外事業につきましては、中華人民共和国の蘇州市で当社現地法人「百樂和商業諮詢（蘇州）有限公司」が運営管理に関する業務を受託する「NISON CITY MALL（ニーソン シティ モール）」が、9月28日にオープンいたしました。なお、当社子会社PARCO（SINGAPORE）PTE LTDが運営する「PARCO Marina Bay（パルコ マリーナ ベイ）」につきましましては、平成26年3月31日の契約期間満了に伴い営業を終了いたします。

既存パルコ店舗につきましては、福岡パルコ及び隣地の土地建物の信託受益権を取得後、隣地の建物を福岡パルコの新館として建替える方針を決定し、平成26年秋の開業予定に向け「福岡新館プロジェクト」業務に着手いたしました。また、都心型店舗を中心に当第2四半期連結累計期間で全店計約18,000㎡の改装を実施し、改装ゾーンの売上高前年同期比は全店計104.3%と伸長いたしました。主な改装店は次のとおりです。

[渋谷パルコ]

オープン40周年を迎えた渋谷パルコでは、ファッションとカルチャーの融合、グローバルな情報発信をテーマに、新業態や複合業態のショップを軸として改装を推進いたしました。春の改装では、セレクトショップやレディスファッションの新業態ショップを多数導入し、秋の改装では、国内有力モードブランドの新業態ショップを中心に、パート1の1階をTOKYOモードの発信拠点として再編集いたしました。また、パート3の地下1階に、国内外のストリートカルチャー作品等を展示・販売する「パルコ ギャラリーX」を新たにオープンいたしました。

[名古屋パルコ]

今秋の南館15周年、来年の西館・東館25周年に向け、3館体制の再編を図る改装を推進いたしました。名古屋地区最大規模のセレクトショップ集積をさらに強化すべく、春の改装では、新進のセレクトショップを南館3階に導入し、「デザイン」・「モード」の切り口で編集することで男女・年齢を問わず楽しめるフロアに刷新いたしました。秋の改装では、西館の3階・4階にヤングレディスファッションのエリア初出店ショップを導入し、ファッションのトレンド提案力をさらに高めました。

[静岡パルコ]

静岡エリアで新たな商業施設が相次ぎ開業し競合が激化する中、ファッション性と独自性を高め、店舗の付加価値を上げるべく改装を推進いたしました。前年秋のグランドフロア改装に続き、春の改装では、3階レディスフロアを全面的に刷新し、静岡エリア初出店、新業態のショップを中心に、ファッション、ビューティ、カフェからなる女性のためのライフスタイルフロアとして再編集いたしました。

営業企画につきましては、前年度の会員サービス拡充策により、＜PARCOカード＞の新規会員及びカードでのお買い物が常時5%オフになるクラスS会員が大幅に増加したことをふまえ、3月の＜PARCOカード＞企画や5月の『PARTY SALE』開催時の会員優待企画内容を強化いたしました。これらの施策等が奏功し当第2四半期連結累計期間の＜PARCOカード＞取扱高は前年同期比108.0%と伸長いたしました。

販売促進企画につきましては、各店舗で集客イベントを強化し、リアルな“場”の楽しさを演出することで、話題や情報を発信いたしました。池袋パルコでは、7月から「SORA PARCO (ソラパルコ)」と銘打って屋上をイベントに活用し、オープンエアでのライブ、マーケット、映画上映等のバラエティに富んだコンテンツを展開し、好評を博しました。また、渋谷パルコでは、パルコミュージアムを活用し、40年間に培ったクリエイターとの人脈を活かした「渋谷パルコ40周年記念エキシビション『シブパル展。』」等、当社独自のアートイベントを開催いたしました。

また、新たな宣伝・販売促進手法として戦略的にWebを活用いたしました。パルコ各店Webサイトのリニューアルを順次進める中で、お客様とのコミュニケーションツールであるテナントショップブログに、ソーシャルネットワークサービスとの連携機能を追加し、情報拡散機能を強化いたしました。加えて、コミュニケーションアプリ「LINE」の公式アカウントを開設し、夏のセールでは人気の「LINE」キャラクターとコラボレートしたキャンペーンの展開により多数のお客様の来店につなげる等、新たなO2O（オーツーオー）施策（※）に取り組みました。

J. フロント リテイリンググループとしての協業の取り組みといたしましては、株式会社大丸松坂屋百貨店との初の全店規模での共同販売促進企画『春のウルトラサンクスフェスティバル』（3月）、当社及び株式会社大丸松坂屋百貨店の株主優待割引制度の相互提供開始（5月）、期間限定での＜PARCOカード＞とDAIMARU CARD・マツザカヤカード相互利用ポイント5倍付与（6月）、名古屋地区でのパルコと松坂屋の夏のバーゲン共同販売促進展開（6・7月）等の施策を実施し、新たな客層の拡大と売上高の向上を図りました。

※O2OとはOnline to Offlineの略で、例えばWeb上（Online）でクーポンを配布しWeb外（Offline）のリアル店舗に顧客を誘導するといった、オンラインとオフラインでの販売促進活動と購買行動を相互に連携させることを指します。

<専門店事業>

専門店事業の売上高は90億1百万円（前年同期比107.9%）、営業利益は2億25百万円（前年同期比109.1%）となりました。

株式会社ヌーヴ・エイにつきましては、T i C T A C事業及びアイウェア事業の好調により、売上高、営業利益ともに前年同期実績を上回りました。

<総合空間事業>

総合空間事業の売上高は89億92百万円（前年同期比98.8%）、営業利益は1億31百万円（前年同期比75.5%）となりました。

株式会社パルコスペースシステムズにつきましては、大手取引先の受注減少により、売上高、営業利益とも前年同期実績を下回りましたが、新規クライアントの受注増加により、当期計画を上回って推移しております。

<その他の事業>

その他の事業の売上高は24億61百万円（前年同期比78.1%）、営業損失は49百万円（前年同期営業損失4百万円）となりました。

株式会社パルコのエンタテインメント事業につきましては、美輪明宏演出・出演『黒蜥蜴』やマキノノゾミ作・演出『非常の人 何ぞ非常に』等の話題作を上演し好評を博しました。また、東京テアトル株式会社より運営を移管されておりました「ル テアトル銀座 by PARCO」は、5月に営業を終了いたしました。前年マルチ企画展開したコンテンツの売上の反動もあり、売上高、営業利益とも前年同期実績を下回りました。

株式会社パルコ・シティにつきましては、パルコ及び外部商業施設のWebサイトのリニューアル等の受注が増加し、営業利益は前年同期実績を上回りました。

（注）セグメント別の業績における売上高には、営業収入が含まれております。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比較して153億60百万円増加し、2,216億4百万円となりました。主な要因は、福岡パルコ及び隣地の土地建物を対象不動産とする信託受益権の取得による有形固定資産の増加等によるものであります。当第2四半期連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して127億67百万円増加し、1,154億38百万円となりました。主な要因は、有利子負債の増加等によるものであります。純資産は、前連結会計年度末と比較して25億93百万円増加し、1,061億66百万円となりました。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結会計期間末では、現金及び現金同等物は前連結会計年度末と比較して78億1百万円減少し26億61百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益55億57百万円に非資金項目となる減価償却費や特別損益項目等を調整し50億31百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、240億2百万円の支出となりました。これは、主に福岡パルコ及び隣地の土地建物を対象不動産とする信託受益権の有形固定資産の取得による支出等によるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、111億39百万円の収入となりました。これは、主に有利子負債の増加や配当金の支払い等によるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

最近の業績動向を踏まえ、平成25年4月5日に発表いたしました連結業績予想及び個別業績予想を下記のとおり、修正しております。

<平成26年2月期 連結業績予想>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	271,400	11,800	11,350	6,000	59.14
今回修正予想 (B)	267,900	12,200	11,900	6,350	62.59
増減額 (B-A)	△3,500	400	550	350	—
増減率 (%)	△1.3	3.4	4.8	5.8	—
前期実績	264,779	10,824	10,329	5,083	54.44

(参考)

<平成26年2月期 個別業績予想>

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	249,100	11,350	10,900	5,850	57.66
今回修正予想 (B)	246,000	11,800	11,600	6,350	62.59
増減額 (B-A)	△3,100	450	700	500	—
増減率 (%)	△1.2	4.0	6.4	8.5	—
前期実績	242,706	10,166	10,276	5,444	58.30

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

（税金費用の計算）

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法によっております。

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計方針の変更

（減価償却方法の変更）

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成25年3月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

なお、この変更による当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,463	2,661
受取手形及び営業未収入金	7,675	10,275
商品及び製品	2,758	2,783
仕掛品	225	166
原材料及び貯蔵品	41	42
その他	7,833	7,773
貸倒引当金	△5	△6
流動資産合計	28,991	23,697
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	119,131	120,763
減価償却累計額	△74,664	△76,321
減損損失累計額	△1,034	△1,083
建物及び構築物（純額）	43,432	43,358
信託建物及び構築物	17,209	17,465
減価償却累計額	△2,472	△2,909
信託建物及び構築物（純額）	14,737	14,556
機械装置及び運搬具	1,395	1,406
減価償却累計額	△1,089	△1,083
機械装置及び運搬具（純額）	305	322
信託機械装置及び運搬具	16	16
減価償却累計額	△7	△9
信託機械装置及び運搬具（純額）	9	7
その他	5,597	5,806
減価償却累計額	△4,227	△4,416
減損損失累計額	△122	△133
その他（純額）	1,248	1,255
信託その他	136	138
減価償却累計額	△63	△73
信託その他（純額）	73	64
土地	43,994	46,608
信託土地	19,371	46,536
建設仮勘定	526	3
有形固定資産合計	123,698	152,712
無形固定資産		
借地権	10,949	10,949
その他	894	894
無形固定資産合計	11,844	11,844

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成25年8月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券	2,924	3,051
敷金及び保証金	35,631	27,817
その他	3,365	2,690
貸倒引当金	△212	△209
投資その他の資産合計	41,708	33,349
固定資産合計	177,251	197,906
資産合計	206,243	221,604
負債の部		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	16,278	18,859
短期借入金	5,978	8,607
未払法人税等	3,406	2,365
引当金	1,468	1,677
その他	9,243	7,959
流動負債合計	36,375	39,468
固定負債		
長期借入金	30,397	40,402
引当金	1,737	1,752
受入保証金	33,377	33,176
その他	782	638
固定負債合計	66,295	75,969
負債合計	102,670	115,438
純資産の部		
株主資本		
資本金	34,367	34,367
資本剰余金	35,124	35,129
利益剰余金	33,830	36,197
自己株式	△7	△1
株主資本合計	103,314	105,691
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	397	586
為替換算調整勘定	△138	△112
その他の包括利益累計額合計	258	474
純資産合計	103,573	106,166
負債純資産合計	206,243	221,604

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
売上高	128,337	129,401
売上原価	108,867	109,716
売上総利益	19,470	19,685
営業収入	1,329	1,859
営業総利益	20,799	21,544
販売費及び一般管理費	15,941	15,618
営業利益	4,858	5,926
営業外収益		
受取利息	28	28
受取配当金	42	34
雑収入	146	168
営業外収益合計	217	232
営業外費用		
支払利息	366	271
持分法による投資損失	71	0
雑支出	83	63
営業外費用合計	521	334
経常利益	4,554	5,824
特別利益		
投資有価証券売却益	—	10
その他	—	0
特別利益合計	—	10
特別損失		
固定資産除却損	572	153
減損損失	91	23
店舗閉鎖損失	—	97
その他	11	2
特別損失合計	675	277
税金等調整前四半期純利益	3,879	5,557
法人税等	1,642	2,277
少数株主損益調整前四半期純利益	2,237	3,280
四半期純利益	2,237	3,280

(四半期連結包括利益計算書)
(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,237	3,280
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△8	189
為替換算調整勘定	7	21
持分法適用会社に対する持分相当額	1	5
その他の包括利益合計	0	216
四半期包括利益	2,237	3,496
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,237	3,496
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,879	5,557
減価償却費	2,995	2,880
減損損失	91	23
賞与引当金の増減額 (△は減少)	44	92
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	51	14
受取利息及び受取配当金	△70	△63
支払利息	366	271
固定資産除売却損益 (△は益)	231	65
店舗閉鎖損失	—	97
売上債権の増減額 (△は増加)	△143	△2,597
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△168	31
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,560	2,580
その他の資産・負債の増減額	△848	455
その他	155	18
小計	8,145	9,429
利息及び配当金の受取額	70	63
利息の支払額	△402	△235
店舗閉鎖に伴う支払額	△46	—
賃貸借契約解約に伴う支払額	—	△999
法人税等の支払額	△1,015	△3,226
営業活動によるキャッシュ・フロー	6,751	5,031
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,608	△31,503
投資有価証券の取得による支出	△0	△55
投資有価証券の売却による収入	5	238
敷金及び保証金の差入による支出	△525	△470
敷金及び保証金の回収による収入	833	8,360
受入保証金の増減額 (△は減少)	△579	△482
その他	△5	△90
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,881	△24,002
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△2,050	500
長期借入れによる収入	8,500	15,500
長期借入金の返済による支出	△7,979	△3,371
社債の償還による支出	△500	△500
自己株式の純増減額 (△は増加)	222	9
配当金の支払額	△740	△913
その他	△130	△86
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,677	11,139
現金及び現金同等物に係る換算差額	8	30
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,201	△7,801
現金及び現金同等物の期首残高	7,437	10,463
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,639	2,661

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) セグメント情報等

I 前第2四半期連結累計期間（自 平成24年3月1日 至 平成24年8月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書計上額 (注) 3
売上高 (注) 1							
(1) 外部顧客への売上高	116,177	5,067	5,422	2,999	129,666	—	129,666
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,275	3,680	152	7,108	△7,108	—
計	116,177	8,343	9,102	3,152	136,775	△7,108	129,666
セグメント利益又は損失 (△)	4,479	206	174	△4	4,855	2	4,858

(注) 1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額2百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間（自 平成25年3月1日 至 平成25年8月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	ショッピングセンター事業	専門店事業	総合空間事業	その他の事業	計	調整額 (注) 2	四半期連結損益計算書計上額 (注) 3
売上高 (注) 1							
(1) 外部顧客への売上高	118,107	5,700	5,251	2,201	131,261	—	131,261
(2) セグメント間の内部売上高又は振替高	—	3,300	3,741	259	7,301	△7,301	—
計	118,107	9,001	8,992	2,461	138,562	△7,301	131,261
セグメント利益又は損失 (△)	5,627	225	131	△49	5,935	△8	5,926

(注) 1 売上高には、営業収入が含まれております。

2 セグメント利益又は損失の調整額△8百万円は、セグメント間取引消去であります。

3 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。